

第4回 JESUS(Japanese skill education for young gastroenterological Surgeons) を開催して

広報委員会・JESUS 実行委員会 委員長 猪股 雅史

1. はじめに

JESUS は若手消化器外科医の育成を目的に本学会が最も力を入れている取り組みの1つである。2015年にスタートし、「研修医がじっくりと基本的手技を学べるプログラム企画」「日本を代表する講師陣の招聘」「将来の進路や人生についても深く語り合える懇親会」の3つの意義深い特色を有している。今回は第4回のJESUSを2018年9月14日(金)15日(土)の2日間、熱海伊豆山温泉「ハートピア熱海」で開催した。全国から101名の研修医が参加し、講師陣24名、運営事務局7名とともに熱く素晴らしい2日間を過ごしたので報告する。

2. 過去3年間の実績調査 -JESUSによる本学会会員増加への貢献-

第4回の開催に先立ち、過去3回のJESUS参加者の本学会への入会状況を調査した。結果として、309名のJESUS出身者のうち、101名(32.7%)の新入会員を本学会に迎えたことが明らかとなった。

	研修医参加者数	JESUS後の入会者数
第1回(2015年)	100	49
第2回(2016年)	104	37
第3回(2017年)	105	15*
合計	309	101

*第3回(2017年)の入会実績は2018年9月30日時点のもの

3. 新しい企画の導入 -懇親会におけるJESUS-OB/OGによる講演-

第73回日本消化器外科学会総会(2018年7月、鹿児島市)における教育企画「魅力ある消化器外科学と若手外科医を増やすための取り組み」の中でJESUS参加経験を持つ若手消化器外科医3名の講演企画が行われた。発表の中で、3名とも「外科を志す全国の研修医の同志達と出会えた」「外科医としての将来像が見えてきた」「外科医の大先輩の講師陣から外科医を育てていきたいという強い熱意と大きな誇りや情熱を感じた」とJESUS参加の意義について述べられている。この感動をぜひJESUS受講者にもお届けしたいと考え、今回、新しい取り組みとして懇親会の中で、JESUS-OB/OGによる講演会を企画した。

4. 開催までの準備

本会の開催に際し、最も重要な要素の1つである強力な講師陣として、広報委員会のメンバーである関本貢嗣先生、瀧口修司先生、小林美奈子先生、野添忠浩先生、又木雄弘先生、丸橋繁先生に加え、実行委員として岩下幸雄先生、恵木浩之先生、衛藤剛先生、木村英明先生、土川貴裕先生、二宮致先生、野原京子先生、盛真一郎先生、李栄柱先生、協力講師として大井正貴先生、亀田千津先生、木村和孝先生、高橋広城先生、田島正晃先生、成宮孝祐先生、森和彦先生、鷲尾真理愛先生の総勢24名を招聘した。また広報活動としてWebサイト(https://www.jsjgs.or.jp/modules/education/index.php?content_id=1)の更新を2018年2月に行い、第3回JESUSムービーの追加と2018年開催の告知を行った。広報委員会・JESUS実行委員会合同会議は第118回日本外科学会定期学術集会会期中(2018年4月6日)に開催し、実行委員メンバーの紹介やプログラムの検討、スケジュール確認を行い、5月16日に参加募集を開始した。第2回広報委員会・JESUS実行委員会合同会議は第73回日本消化器外科学会総会会期中(2018年7月11日)に開催し、新たな協力講師メンバーの紹介やスケジュール確認を行うとともに、定員(110名)に達したため募集を終了したことが報告された。ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社の共催により、腸管吻合用のブタ腸管や縫合セット、ドライボックス、VRシミュレーターを準備していただくこととなった。セミナーに関しては、小寺泰弘先生(名古屋大学消化器外科学;大鵬薬品工業株式会社共催)、高橋孝夫先生(岐阜大学腫瘍外科学;日本化薬株式会社共催)、熊谷厚志先生(癌研有明病院胃外科;ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社共催)、河野透先生(札幌徳洲会先端外科センター;株式会社ツムラ共催)にお願いし、快諾を得た。

5. 開催前日(2018年9月13日)

講師陣の一部、運営事務局、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社スタッフは前日に熱海入りして準備を行った。機器の搬入、設営はこれまで3回の経験を活かし、最短の2時間半で作業が完了した。打ち合わせでは、各ブースにおける指導すべき事項や実技を確認した。初めて参加する講師にとっては相互のコミュニケーションを図る非常に有意義な時間と感じた。

6. 開催日(2018年9月14日、15日)

10時30分の受付開始とともに、受講者が次々と会場に到着した。当日緊急で参加できなくなった1名を除く101名の受講者が受付した。11時40分には大広間において班毎にテーブルに着席し、昼食を取りながら自己紹介を行った。開会式

の後、17 班を 4 グループに分け、腸管吻合、トレーニングボックス、シミュレーター、セミナーの受講を各 1 時間行った。受講者は非常に熱心に講師の指導を受けながら実技に取り組んでおり、濃厚な 4 時間の実習であった。腸管吻合では全受講生が吻合成功率 100%（リークなし！）を達成し、今回のレベルの高さを物語っていた。その後も受講生の強い希望もあり、夕食までの約 2 時間トレーニングボックスを解放したところ、自主練習を行う受講者が大勢いた。

夕食時にはすでに班員同士に友好ムードが芽生え、非常に和やかなムードであった。今年も三重大大学からの特別な樽酒をはじめ、講師陣の地元のお酒（計 40 升！）が振る舞われ、美酒に舌鼓を打った。今回の特別企画として、大井秀之先生（鹿児島大学）、長澤由依子先生（大分大学）の 2 名に JESUS 出身者としての経験をそれぞれお話いただいた。笑いあり涙ありの聞き応えある内容で、受講生たちも真剣に聴講している姿が印象的であった。VR シミュレーター高得点班の表彰、又木先生のクイズ大会では、今年も大いに盛り上がり、楽しいひと時であった。その後、会場を移動して恒例のスモールミーティングが行われた。講師陣と受講者は浴衣姿で、夜遅くまで交流を深めた。この場においては出身大学、年齢、男女、班の垣根を超えた交流が行われ、多くの出逢いがあった。

2 日目は朝から恒例のトレーニングボックスコンテストが行われた。受講者は練習の成果を十分に発揮し、非常にハイレベルなコンテストとなった。今回は準決勝以降の戦いをモニターに写しながら受講生にも見える化を行った。決勝戦では大崎さん（八尾徳洲会総合病院）と野田くん（大分大学）の戦いをみんなで見守った。1 回目の対戦では全くの同タイムで、再試合が行われるドラマのような展開となり、2 回目の対戦で大崎さんがチャンピオンに決定した。

閉会式では、コンテスト優秀者の表彰の後、各班の代表から挨拶していただいた。挨拶では、悩みを全国の外科志望者と共有できてよかったことや友達となった受講生との別れを惜しむ感想などが聞かれた。前日のミーティングにてスマートフォンを紛失した受講生が数名いたが、全て見つかり安心した（なぜか、ズボンは見つからなかったが・・・）。熱海駅に向かうシャトルバスに分乗し、第 4 回 JESUS の全日程を終了した。

7. 第 4 回 JESUS アンケート結果

アンケート調査を行い、100 名から回答を得た（回答率 99%）。実技に関しては、腸管吻合において 90%以上の参加者が「よかった」と回答した。実技時間の長さに関しては、「ちょうど良い」の 55%が「もう少し長くても良い」の 45%を上回っていた。また、今回の JESUS があなたの今後役に立つと全員が回答した（図 1）。

8. おわりに

第4回 JESUS は、参加した全ての皆様の協力のおかげで、大成功に終わった。運営面においても、非常に円滑に進み、これまで3回の開催によるスタッフの充実ぶりがうかがえた。

JESUS は、本学会として最も重要な課題である「消化器外科医を増やす」取り組みの1つとして明らかに重要な役割を果たして、今後さらに創意工夫を取り入れ発展させて行きたいと考えている。今回受講した101名の研修医諸君の将来にとってかけがえのない素晴らしい経験となり、消化器外科医の魅力に惹かれ、1人でも多くの参加者が消化器外科の扉を開いて頂ければ幸いに思う。



JESUS 2018 2018.9.14 - 15 ATAMI

Copyright © The Japanese Society of Gastroenterological Surgery All Rights Reserved.

8. 今回のJESUSがあなたの今後に

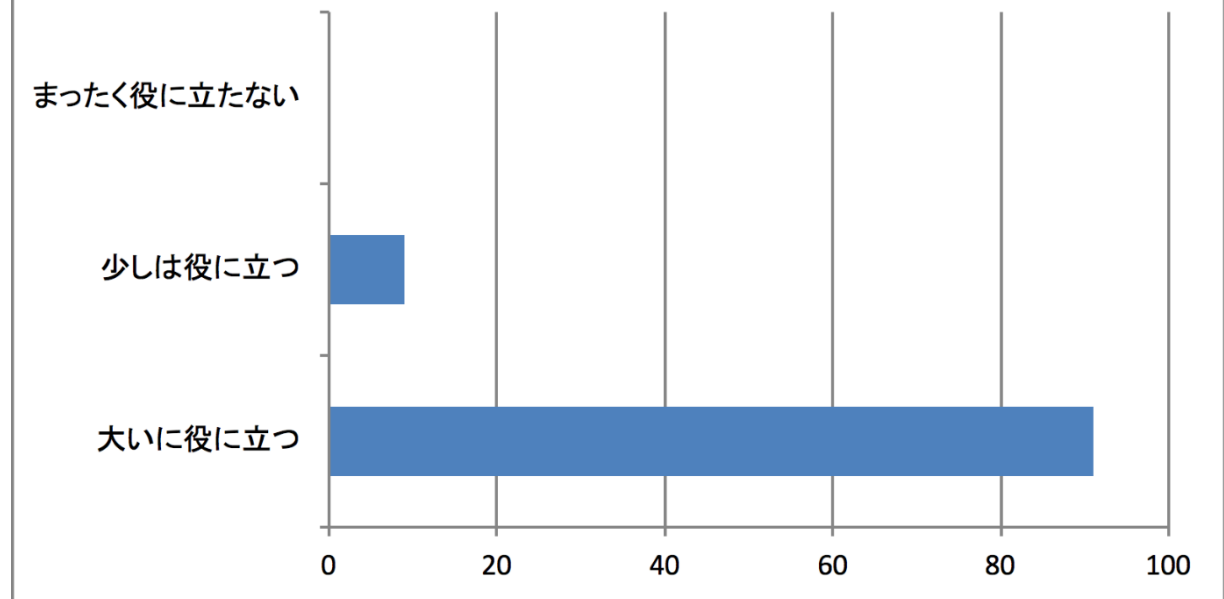


図 1